

## 基本理念

### 目的（存在理由）

#### 社会への貢献

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

### 基本的価値観（不変の主義）

#### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

#### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

#### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々<sup>\*</sup>に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー  
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

## 10年ビジョン（2008年4月～2018年3月）

### 技術力と収益力において

世界一のモバイルスペースメーカーになり、  
資源循環型ビジネスにより社会へ貢献する。

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第48期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)  
報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度(当期)における日本経済は、経済政策や  
金融緩和政策などにより雇用・所得環境の改善が続く中で、  
個人消費の持ち直しの動きなど、景気は緩やかな回復基調が  
続いています。

一方で、米国の金融政策正常化や英国のEU離脱問題など  
海外経済の不確実性の影響もあり、今後の景気の先行きには  
留意する必要があります。

ユニットハウス業界においては、企業収益の改善や補正予  
算の執行を受けた公共投資の増加等、建設投資は堅調に推  
移しており、需要の高い状態が継続していますが、原料価格の

変動による資材購入価格の上昇や建設労働者の人材不足が  
顕在化しており、先行きは楽観視できない状況となっています。

このような情勢の中、当社は、熊本地震の被災地域にお  
いて、約350戸の応急仮設住宅を建設しました。そのほか仮  
設現場事務所や仮設店舗など、被災地域の建設需要に優先  
的に対応してまいりました。また、全国的に生産及び物流拠  
点の設備拡充を行い、需要増加に対応できる体制を整えるな  
ど、供給体制の強化を図っています。

「必要なとき、必要なだけ、必要な空間を提供する」こと  
により、当社のユニットハウスは従来の仮設建築市場のみなら  
ず、本建築市場、不動産市場にまでその優位性を十分に発  
揮できるものであると確信しています。“建築の工業化”とい  
う当社のコア技術をさらに高めていくことにより、新たな市場  
の開拓を図っていく所存です。

今後も創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピリッツ  
(開拓の精神)を原点に、社会に貢献する会社を目指し、情熱  
を持って活動してまいります。

### 当期の業績について

ユニットハウスのレンタルにおいては、熊本地震における応  
急仮設住宅をはじめとする復興工事等に優先的に取り組むと  
ともに、プラントなどの大型現場の獲得に注力することによ  
り、出荷棟数・稼働棟数ともに高い水準で推移しました。また、  
デザイン性や機能性をさらに高めることで、大型物件やイベ  
ント、建替需要など本建築市場におけるレンタル受注拡大に  
努めました。

ユニットハウスの販売においては、展示場を新たに32店  
舗出店し、販売チャネルの拡充に努めました。また、旺盛な

本建築需要に対応するため、全国的に設計・施工協力会社の  
ネットワーク拡充に努め、店舗・一般事務所といった本建築物  
の受注体制をさらに強化することで、より一層の収益の拡大  
に努めました。

トランクルームのレンタルにおいては、新たに60店舗出店  
し、営業拠点の拡充を図るとともに、WEB広告等を強化し、  
稼働率の向上を図ってまいりました。

企業の認知度を高めるため、平成29年1月よりラジオ  
CM、2月からはテレビCMを開始しました。「三協フロンテア」  
の社名と「MOBILE SPACE」という概念を世の中に広めるこ  
とで企業価値の向上に努めました。

上記の結果、当期の連結売上高は37,194百万円(前年同  
期比17.0%増)となりました。

利益面においては、営業利益5,216百万円(前年同期比  
24.7%増)、経常利益5,208百万円(前年同期比23.8%増)、  
親会社株主に帰属する当期純利益3,087百万円(前年同期  
比20.3%増)となりました。

今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を活かし、  
期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業績の拡大に  
努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導  
ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成29年6月

代表取締役社長

長巻貴嗣